

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12月10日実施)	総合評価（3月13日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	これからの時代に求められる資質・能力を育むとともに、生徒の進路実現を図る教育課程編成と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善に取り組む。	(1)生徒が自身の進路を見据え、必要な資質・能力を育むことができるような学習支援を行い、また、教育課程について、問題点の検討およびそれにとまなう見直しを行う。 (2)自己調整学習を支えるICT利活用の推進に努める。	(1)①授業力向上推進重点校としての組織的な授業改善に取り組む。 ②生徒の進路や必要な資質・能力の観点から教育課程について、検討する。 (2)ICTの効果的な利活用を推進する。	(1)①授業評価における当該項目の数値が昨年度に比較して向上したか。 ②教育課程について、問題の発見およびそれにとまなう見直しができたか。 (2)ICTの効果的な利用ができたか。	(1)①数値は概ね良好であったが、ICTの利活用については、教科特性のためか差が生じた。 ②教育課程を検討するため教育課程検討委員会を設置した。 (2)電子黒板の導入に伴い、従来のモニタを全ての特別教室に再配置した。	(1)授業力推進重点校として、根本的に何が必要なのかを再考し、全職員で取り組めるよう更に改善していく。 (2)授業におけるICT利活用の利用率の向上(現在5割超)と有効で効果的な利用を考えたい。	・ICT利活用が目的となってしまうこともある。また、「書く」という行為の重要性を忘れないでほしい。 ・ICTの利活用を推進する上では、生徒・教員を対象としてモラル研修が必要だと思う。	(1)教育課程の見直しを実施。今後、細部を検討する。 (2)ICT利活用のため環境は充実し、職員、生徒の利用率は向上した。今後はAIを含めた利用面での充実を図る。ICT研修を通し、モラル等を徹底する。	(1)求められる資質・能力を育める、よりよい教育課程を作成する。 (2)DXハイスクールに対する職員の理解を図る。それまではソフト面での更なるブラッシュアップを考えていく。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	学習活動や学校行事、部活動を含めたすべての教育活動を通して、命の大切さや自他を思いやる人間性や社会性を育む。	(1)新型コロナが収束に向かい、部活動や学校行事の内容の精選を続けながら生徒の主体性を向上させる。 (2)生徒個々の抱える問題に適切に対応するとともに、主体的に自他を思いやり、命の大切さを育む心を育てる。	(1)①部活動や各学校行事で中心となる生徒を育てリーダーシップを発揮できる人材を増やす。 ②部活動の生徒が活躍できる場を増やし、加入率を保つ。 (2)①交通安全に係る定期的な指導を行う。 ②サポートドックを有効に活用し、教育相談窓口を活性化し、外部機関等とも連携し、適切な対応とれる組織を構築。職員の知識やスキル向上を図る。	(1)①部活動では、部長・副部長、学校行事では各実行委員会との意見交換や業務の役割分担が明確か。 ②部活動が校内外に活動の場を広げているか。加入率は低下していないか。 (2)①交通事故や近隣からの苦情が減少したか。 ②SNSでの問題行動が減少したか。起こった場合、組織的に対応できたか。職員の知識やスキル向上が図れたか。生徒個々の状況に合わせた支援ができたか。	(1)①文化祭では、実行委員会や部活動の生徒が企画・運営する中で、暑熱対策や近隣対応の問題に多くの協力を得て無事終了した。 ②新たに、「たまプラハロウィン」、青葉区制30周年事業等の地域行事に参加し交流することができた。加入率は例年通りである。 (2)①交通事故の件数は例年よりも減少、近隣からの苦情も激減した。 ②SNSでの問題行動は、起こっていない。	(1)連携するとともに更に活動場所を校外へと広げていきたい。 (2)引き続き、PTAと連携した交通安全指導の実施や携帯電話教室の実施など問題行動の未善防止に取り組んでいきたい。	・生徒の教育活動の中で生じている騒音対策は、学校全体の問題として学校運営協議会で検討していくことが必要だと思う。 ・各行事における暑熱対策は検討課題だと思う。開催時期や日程等の検討が必要かもしれない。 ・自転車通学におけるヘルメット着用の徹底は、難しい面もあるが、命を守る大切な対策である。引き続き検討課題としていつてほしい。	(1)校外連携の場を設けることはできたが、生徒が積極的に参加できる環境づくりを整えていきたい。 (2)生徒実行委員会との対話の回数を多くとり、その意見を取り入れた行事の運営を行うことができた。 (2)かなりの数の生徒が、ヘルメットの着用を始めたが、着用の徹底までには至っていない。命を守るため徹底したい。	(1)引き続き学校行事で、地域や保護者と連携しながら生徒が主体的に取り組むことができるようにする。特に対応が必要な行事については学校運営協議会や校内での共有をさらに深めていく。 (2)ヘルメット着用については、生徒はもちろん、保護者への理解をあらゆる場面で求めていく。
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが希望する進路の実現に向けた進路指導の充実を図る。また、社会的・職業的な自立を目指したキャリア教育を構築する。	(1)生徒自身が自ら希望する進路を見出し、その希望する進路を、諦めずに実現するための手立てを実践する。 (2)3年間を見通した進路支援を行い、計画的	(1)生徒自身の進路希望実現のため、2学年時に「第1志望宣言」を書かせて意識付けしたり、応用力の育成を図る特別講座を行ったりして、諦めない進路実現を支援す	(1)様々な情報提供や学習指導を充実させ、生徒の進路実現についての意識を向上させることができたか。 (2)外部講師を活用した各種講演会等で生徒のキ	(1)3年生に対して、「元石川進学講座」を開講したり、志望理由書の添削課題を課したりと、組織的に進路指導を行う体制をつくり、生徒を支援するこ	(1)受験が複雑化しており、その点に対する指導を行えるよう、教員間での細やかな情報共有を行っていく必要がある。 (2)外部講師による講	・受験方法の多様化、複雑化は進行していることがよく分かった。 ・模擬授業は大学に声を掛けてもらえれば、協力したいと思う。	(1)「元石川進学講座」や職員による進路相談会を行い、生徒の進路実現をサポート。若手教員対象の進路指導講習会の開催、上級学校の情	(1)最新の進路情報の発信とともに、本校ならではの指導ポイント等を共有する。推薦書等を蓄積することを開催する。

	視点	4 年間の目標 (令和6年度策定)	1 年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (12 月 10 日実施)	総合評価（3 月 13 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			組織的にキャリア意識の向上を図る。	る。 (2) 「社会人に学ぶ」や外部講師による各種講演会を活用し、1 年次からキャリア意識の向上を図る。	ャリア意識の向上を図ることができたか。	とができた。 (2) 定期的に外部講師による講演会を取り入れており、生徒の進学への意識を高めることができた。	演会が生徒に及ぼす効果を検証し、実施時期や方法を検討していく。		報発信を行い、情報共有を図った。 (2) 模擬授業や「社会人に学ぶ」を通して、生徒が進路を考えることができた。	(2) 先輩の話を通して自らの進路を考える機会が必要。3 月の先輩大学生による進路講演会を継続する。
4	地域等との協働	地域に開かれた学校として、地域との交流や協働を通して、生徒の社会性を伸ばし、自己有用感を醸成する。また、地域と一体となった学校づくりを進めていく。	(1) 昨年からの AOBA キャラバンを継続し、更に地域との連携を強化する。 (2) 委員会活動における他グループとの連携をはじめ、AOBA キャラバンを推進することで、生徒の活動の場と社会性、人間性を広げる。 (3) 探究テーマにも「地域」を加え、生徒の地域活動を活性化させる。	(1) AOBA キャラバンについては More や関連の文化部等が主体的に活動できるようにする。 (2) 学校説明会におけるボランティア委員会、学校広報としての新聞委員会など活動の場の提供を推進する。 (3) 探究的な時間のテーマ設定に「地域」を加え、プロジェクト型の探究活動も実践する。このことから地域との連携の重要性を認識させる。	(1) AOBA キャラバンの継続と生徒が主体的に活動できたか。 (2) 委員会でのグループ連携ができたか。 (3) 探究活動に「地域」を加えられたか。	(1) AOBA キャラバンは活動進行中で、更に「たまプラハロウィン」についても協力することができた (2) ホームページの見直しについては継続中である。 (3) 探究の「地域」については希望を募ったが生徒からの希望はない。次年度から個人テーマの設定については工夫しある程度の枠の提示を検討する。	(1) 引き続き地域の活動場所を確保しつつ、生徒の中に「地域」を意識させていきたい。 (2) ホームページを中心とした、ニーズに応えた適切な情報発信を行える手立てを検討する。 (3) 現行のテーマ立てを改善し、本校に適した探究テーマを生徒が立てられるよう工夫していきたい。	・前期の取組みがよくわかり、日々の取組みの大変さを感じた。 ・「AOBA キャラバン」「たまプラーザハロウィン」など地域との連携は、今後とも継続してほしい。 ・ホームページも見やすくなった。 ・探究と地域のつながりとして、アントレプレナーシップの「地域防災」は、継続してほしい。	(1) 地域連携の活動はここ数年で一番活発な充実した内容で成果をあげた。 (2) ホームページはだいぶ改善されたが、更にユーザー目線を意識した良いものを目指す。 (3) 「総合的探究の時間」は 2 年目を迎え課題が見えた。改善し更なるブラッシュアップで本校らしい探究にしていく。	(3) 次年度の探究については、自らの「問い」立てと、課題解決に分けて実施予定である。課題については地域を意識し、アンブレプレナーシップのノウハウを活かし進める予定である。
5	学校管理 学校運営	安全・安心・快適な学習環境の整備・充実に努めるとともに、事故や不祥事防止の徹底に努め、信頼される学校づくりを推進する。	(1) 教育環境の整備（安心、安全、快適な学習環境の整備） (2) 生徒、職員の学校防災活動の日常からの意識付けを図る (3) 防災備蓄品の整備と拡充 (4) PTA、同窓会、校内各グループ協力、協同を図る。 (5) 教育環境の根幹となる個人情報、特にシステムの ID 管理について、関連所管との連携を強化し、特に新学年のスタート時に混乱のないようにする。	(1) SDG s を視野に入れた教育環境を整備する。 (2) (3) 災害等緊急事態に素早く対応し、早期に学習環境の通常復帰ができるよう、様々な場面を想定して、対応策を検討する。 (3) 防災倉庫を増設する。 (4) PTA、同窓会、校内各グループと綿密に連携し、運営を進める。 (5) 入試センター、事務室、カリキュラム G と協議をし、システムの ID 作成に混乱のないよう管理体制を構築する。	(1) 重点項目にしっかりと手厚い配備・整備ができたか。 (2) 実践的かつ実用的な防災意識を、日常的に各教科などの学習活動にも広げて意識付けを図れたか。 (3) 滞りなく実施できたか。 (4) 各学校行事等で協力できたか。 (5) ID 管理の体制を構築・運用できたか。	(1) 教育環境の整備は、現時点では問題なく行われている。 (2) より実践的な防災訓練を実施できた。 (3) 防災倉庫を 3 台増やした。新たに PTA 環境倉庫を設置した。 (4) 体育祭、文化祭の他、県立学校環境整備事業で協働できた。 (5) ID 管理の元となる生徒氏名の作成手順について、入試センターと連携し、運用の管理について全体へ周知したい。	(1) 電子黒板等新たに配付された物品の整備について検証を行う。 (2) 今後も前例にとらわれず災害情報を基に必要な改善を図っていく。 (3) 防災用品や備蓄食料などの増設に伴う保管倉庫について情報共有を確実にを行い、万一に備える。 (5) 運用についてまとめていく必要がある。	・生徒ひとり当たりの備蓄食料が増えたことは良かった。 ・元石川高校は一次避難所ではないが、災害が発生した時、近隣の住民が避難してくることは十分あり得る。生徒には、新たな防災意識を持つようになってもらいたい。	(1) 教育環境の整備は進んでいる。 (2) 実践的な防災訓練を実施できた。 (3) 災害備蓄品の保管倉庫は準備することができた。今後は、更なる災害備蓄品準備のための予算の確保が課題である。 (4) PTA、同窓会等と協働した新たな取組みを実施した。 (5) ID 管理の管理体制を構築した。引き続き運用方法・まとめに取組んでいく。	(3) PTA と協力して、災害備蓄品を揃えていく。また、必ず大地震が起こることを生徒に理解をさせ、より実践的な防災訓練を行う。